



TITLE:

高速写真レンズ/ アラビア数字の起り/ ナポレオンの日時計/ 通信/ スコフィルド氏訪問記

AUTHOR(S):

CITATION:

高速写真レンズ/ アラビア数字の起り/ ナポレオンの日時計/ 通信/ スコフィルド氏訪問記. 天界 1924, 4(44): 331-332

ISSUE DATE:

1924-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160154>

RIGHT:

最近にテイラー・ホブソン社よりクックレンズのなる名稱のF2といふ高速レンズが發賣された。レンズの組合せは前玉は一枚の單玉と二枚合成レンズの組合せより成り。後玉は對稱鏡玉である。對稱がラス鏡玉にて優良なるアナスチグマツトなる由、角度は少なくとも五〇度は平坦なり。

此の新鏡玉の天體寫眞用として特に流星の寫眞に有力なるべし。

天文と數學とは昔しから深い仲好しですが、其の數學に今日用ゐられるアラビア數字と稱せられるものは、實は誰が何時頃に發明したものが全く分らないのです。ニウ・トニックで發行される「數學教師」といふ雜誌に「CPシヤーマン」といふ人が此の圖のやうに説明してゐます。

かうした數字は西曆第二世紀の頃インドの或る記録に現れたのが最初だそうですが、第九世紀に至つてアラビアの數學者が之を、インド又はアフガニスタンあたりから歐はつて代數學の書物に用ゐたのを、一二〇二年の時イタリーのピサ市にゐたレオナードといふ人

が、其の書物をラテン語に譯したので、始めてこれが歐洲に紹介されたのだといひます。

一四〇〇年頃には此のアラビア數字がひろく
歐羅巴に行はれて　ローマやギリシヤ式の數
字は見るのが稀になりました。今、ローマ數
字さいふものが残つてゐるのは、時計の盤面
ぐらゐなものです(山本)

○ナポレオンの日時計

大ナポレオンが歐洲に轉戦して得意の時代から、失意してセント・ヘレナ島に流されるまで座を離さなかつた一つの日時計があるりますが、それは今アメリカに居るアーノルド・コルフといふ人の手に渡つてゐます。アーノルド氏は之れを親からゆづり受けたのだと言つてゐます。

日時計の大きさは、舊式の懐中時計ぐらゐりで、文字盤は手細工の銀で出来、ボケットニ入れて持ち歩ける程のものです。銀面のうへには文字がアラビア文字とローマ數字とで普通の時計のやうに書かれてあり、底部にはカラウスなびめた小さな穴があつて、そこには可愛らしい磁針がありますが、此の針は將軍が使つてゐた時代と同じに、今もよく働きます。

十八世紀のパリで最も評判の好いパタ
フィルドさいふ製作家が作ったもので、テザ
インも見事であります。裏面にはストラスブ
ール、サン・ロー、ロマ、トゥールウズ、プリ
ュセル等の大都市の名が細かく刻んでありま
すが、字が小さいのにも拘はらず、甚だ明瞭
であります。又、小さな鳩の形が日時計の文

字盤に蝶つがいで付けてありまして、時計を皮囊にしまひ込む場合には之れも折り疊まれるのです。

此の日時計の皮囊は元からのものです、裏のびろうごははげてゐます。上にはナポレオンの有名なNさいふ字があります。之れには古い記録がついてゐて、ナポレオン世の手を離れて以來、人から人の手に渡つた証拠が記されてあります。——（或る新聞記事から
山本）

○岡山支部七月通信

一、例會 六日午後一時岡山市通俗教育館に於て開會左の講演があつた。

火星の生物
水野支部幹事

二、天界研究會
部幹事宅で開催

三、講習打合 八月三日から金光町に於て開催の講習會打合せの爲め二十二日水野支部幹事は同町に出張した。

四、講話會 二十四日午後七時から清輝小學校で講話會が催され水野支部幹事は左の講話をした。

國語讀本にある星の話

五 家庭宣傳 水野支部幹事は中國アルプス踏破の歸途左の通り家庭宣傳をした。

二十七日	菅田郡高野村	中島大次郎氏宅
二十八日	同	保田九一郎氏宅

○スコフィールド氏訪問記

天文臺にて 中村 要
七月十二日神戸支部の森下氏を訪問し種々

雜誌後同氏所有のエリソン四時半鏡の影及び帶試驗を行つた。同氏宅にて一泊十三日午後約東の中山手通のスコフィールド氏を尋ねた。早々同氏は流暢な日本語で十日に通知した九日朝の火星極冠の破れたのは同じ様に私も見ましたとてスケッチを示し自分の觀測を充分に證明された。此れ以外に彩色の美しい遊星面のスケッチや太陽黒點のスケッチを示され無精者の自分は細々と認められた注意書きに驚かされた。小談後屋上のドームで同じスタンドについたアーヴィンが六時半及びカルバー八時半を詳細に見せて頂く。ダイアゴナルにはプリズムを使つて居られたがカルバー平面鏡より良いと言つて居られた。望遠鏡の寫眞數葉を收める。日没後自分の希望により種々試驗を始める。始めて向けた牧夫の見事な分離や美しい屈折に劣らない于渉像に驚かされる。経緯臺なので仲々使ひにくい。木星に向ける八時半で帶の鮮明さに驚く。木星には屈折は比較にならぬ。明瞭でコントラストの良い事古くても世界一のカルバーのものだと思はれた。六時半は大鏡の銀がさつて太陽専用であるが其のまゝ木星アルテル等を見て像は相等良いがカルバーより悪い事を知る。此れ等を見て居る間に同氏は昨年中に今年の火星の爲にペーカール赤道儀のカルバー又はエリソン氏の十時鏡を購入の豫定であつたが不幸實現出來ず明年になれば求めたいと言つて居られた。二階の室で反射鏡や火星の運河や近頃の極冠等についての意見の交換をし

火星の運河に對しては細いものは甚だ疑はしいが太いものは確かにありますと強く語られた。十時過就寢。午前一時半に起きるとすでに火星を見て居られた。火星面の極冠の破れ目が確かに半分でつuitた事を認める。イメーシの良い事に驚く。二時前から自分が二時半から氏が交代に全然獨立でスケッチを取る。終つて比較するさ書き様はちがふが大體一致して居る。大シルチス運河が丁度子午線近くで壯觀である。ニロシルチス運河が兩人共明瞭に認められた。三時過ぎ三〇〇度が子午線の時より一度づつスケッチする。アリンのがよく見える。此れから京都七時八時半の比較に對し自分の感じた所をのべた。八時半は銀が古く同じ明るさにかゝわらず模様のコントラストが二倍はある。特に七時は分かりにくい色が明瞭に示される。七時より確かによく見える。七時はアボクロマチツチで此の程度であるから通常の色消しではもつと悪いはず)……

氏は今後商賣の都合もあるので一週二回だけしか見られない。事や突然事件があれば互に通信しませう等語られ、急がしいので使つて居られないからと貴重なクツトリン分極太陽鏡とヒルガノプロミネンス觀測用分光器を借して下さつた。日出後六時半で太陽を見る。銀無し鏡の鏡が示す黒點のデテイルは又格別である。又分光器の使用法を示されたこと、で自分は思ひがけず生れて始めて樂々小プロミネンスを見た。日本に於ける最良の遊星

三八

用望遠鏡を所有される氏の厚意によつて急しい中をわざ／＼一夜を費されたので自分さしてすカルバー鏡の威力を日本に於て反射鏡を使ふ可能性に對し充分の確信を得た事は非常に幸福であつた。又火星の運河は言はれる程見難くなく又機械固有でもない事をより知る事が出來た。

○松本支那通信

七月二十一日 和田小學校へ幹事上條清人氏出張『惑星の話及天文語に就いて』と題し講演をなせり。

○本部通信 (簡易星圖について)

簡易星圖(古賀氏編、山本氏校閱)は安價輕便なるため廣く會内外の要求ありて今や殆ど全く殘部無き迄に至る。上田助教、中村要氏の勞を待つて一九二五年基準のもの、作製を計畫中。尙殘部少々あり、代金十錢、送料當方持。

